

社内に存在するIT資産の把握から、稼働中の自社開発アプリケーションの脆弱性確認まで BigFix と AppScan による組織全体での Log4j 脆弱性問題への対応

Log4j 脆弱性の問題は、システムやアプリケーションごとのセキュリティ対策の限界を明らかにしました。Log4j 脆弱性問題に対応するためには、組織内のIT資産全体(端末、OS、自社開発アプリケーションから市販ソフトウェアまでのすべてのアプリケーション)を把握し、影響範囲を特定し、対応できる体制が必要です。HCL BigFix と HCL AppScan で万全のセキュリティ対策を実現しましょう。

セキュリティ対策のステップと Log4j 脆弱性における課題

セキュリティ対策のステップ

可視化

Visibility



評価

Measurability

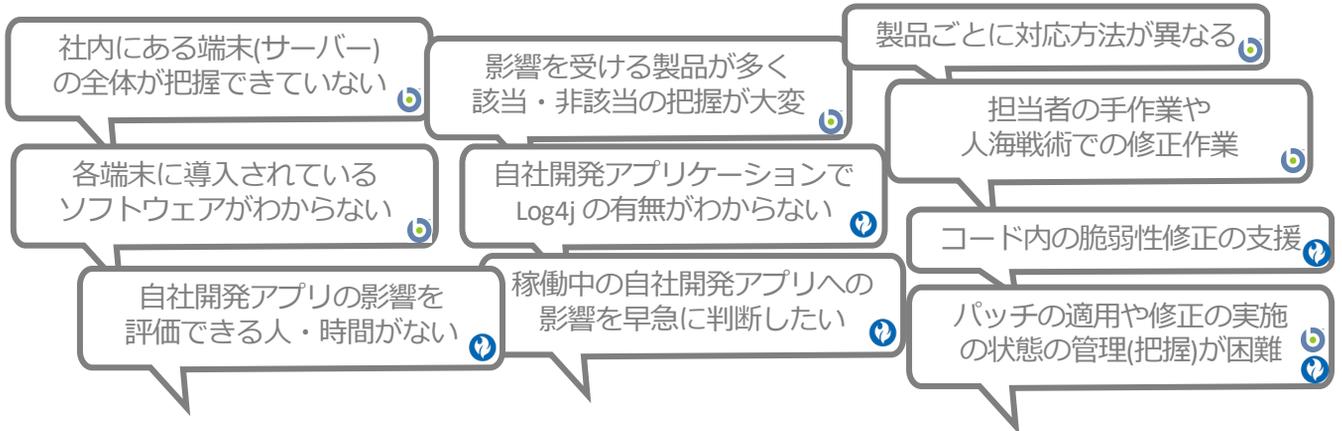


対応

Control



Log4j 脆弱性における課題



HCL BigFix と HCL AppScan によるIT資産全体でのセキュリティ対策

社内のすべての端末と状態の管理

自社開発・運用アプリケーションの脆弱性検出



- 社内すべての端末とインベントリの管理
導入されているソフトウェアなどの端末情報も収集可能



- 条件に合致する端末を抽出
ファイル名での検索など、条件に応じた影響範囲の特定



- 迅速で成功率の高い修正の配布
Push & Pull での修正ファイルの配布による確実な対応



- WEBアプリケーションの脆弱性統合管理
管理コンソールで検出されたリスクや対応の全体を把握

- 動的診断による脆弱性の検出・修正支援
リリース前、あるいは運用中のアプリケーションへの動的診断で迅速に把握、修正を支援

- ソースコードレベルでの検出・修正支援
静的診断によるソースコード診断で、早い段階での脆弱性の特定と修正を支援

